

1.空中さし木法とは

【現在のスギさし木コンテナ苗生産の課題】

- ①気象条件等により苗生産数変動（ロスを見込み、余分に生産）
- ②さし床準備、掘取り等が重筋作業（人手の確保に苦慮）
- ③掘取るまで発根状況が不明（発根期間を長めにする必要あり）

【空中さし木法（通称：エアざし）とは】

- 土などの基質を使わず、特定の環境条件下に配置した穂木に散水することによって発根を促す技術
- スギさし木コンテナ苗生産に活用できる

【空中さし木法を活用したコンテナ苗生産のメリット（特徴）】

- ①発根率が安定
 - 温室で管理するため気象条件の年変動の影響を受けにくく、発根率が安定する
- ②さしつけに土を使わない
 - さし床の準備や苗畑の維持管理が不要となり、それに伴う資材費の削減及び労務の軽減につながる
- ③発根のタイミングに合わせた柔軟な苗生産を実現
 - 発根の「見える化」により、発根までの期間が異なる多様な品種の生産に有効

【注意事項】

- 散水条件の設定
 - 設置場所の環境に応じて散水条件の変更が必要な場合がある
- カビ、腐敗等の防除
 - さしつけ密度の調整や定期的な薬剤散布による防除が必要

【空中さし木法】

穂作り

【現在の生産法】

穂の立てかけ



さしつけ

6ページ

ミスト散水



さしつけ後
管理

7ページ

発根確認

8ページ



目視で発根の確認

植え替え

8ページ



コンテナ苗



出荷

9-10ページ

育苗



簡単・安価な資材
で作業効率up!
資材は複数年使い回し

安定した環境条件
で生産量up

立てかけた穂から
発根した根を
そのまま確認!

発根した根の状態を
直接確認し、根切り
の作業を省力化

箱ざし



土の準備→コスト
→労力

露地ざし



年による気象条件に左右

掘取り



掘りとりまで発根が不明
→さしつけ期間の長期間化

根切り作業必須

